

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第2号 —

平成19年10月20日発行

発行 草加市立病院

編集 経営管理課

〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号

☎ 048 (946) 2200(代)

ホームページ <http://www.soka-city-hospital.jp/>



産科を再開しました

母児に優しい出産のお手伝い

草加市立病院は、平成17年3月に休止した産科を10月1日に再開いたしました。市民の皆様には、休止期間中、ご不便やご心配をおかけしましたことをお詫び申し上げます。産科につきましては、当院に限らず全国各地の病院で廃止や休止が相次いでおりますが、当院では産科の早期再開を最優先課題として取り組んでまいりました。その結果、5名の産婦人科医に勤務を引き受けていただき、再開が実現したものです。当院では、引き続き、分娩を希望される皆さんの期待に応えるため、助産師等の確保など産科体制の充実に全力で取り組んでおりますので、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

病院の皆さんに感謝

私が入院中、感動して忘れられないシーンがたくさんあります。

帝王切開での出産、麻酔でもうろうとしていた私の手を安水先生がぎゅ

ッと握ってくださいました。術後歩くのにも苦戦している私の体を気遣い支えてくれた先生。

手術翌日、「一生ベッドから起きたくない！」と思うほどの激痛。それでも、その日のうちに歩けるようになったのは、いつでもイヤな顔ひとつせず、優しい笑顔で接してくれた助産師の方のおかげです。初めての出産、不安ばかりだったけれど、



最後に、草加市立病院産婦人科の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

田村直毅・朋美

経験豊富な医師がバックアップ

当院は快適でかつ安全な妊娠と出産をモットーとし、産科医療のさらなる向上を目指します。産科外来、分娩介助、産後管理、新生児管理などは助産師主体とし、自然分娩を原則として一人お一人のペースにあわせての出産のお手伝いをいたします。

具体的には助産師外来、母親・両親学級、夫立会い分娩、母児同室、母乳育児援助などを行っています。

近年は出産年齢の高齢化により異常分娩が増加しておりますが、医師のバックアップにより万全



(右から佐藤徳郎医師、大久保大孝医師、加藤真也医師、安水洸彦副院長、小林久晃医師)

産科再開後、初めての赤ちゃんが誕生

10月3日、産科再開後、初めての赤ちゃんが2年7か月ぶりに誕生しました。

旭町6丁目在住の田村直毅さん・朋美さんご夫妻の第

あの応援や励ましがなかったら、絶対に乗り越えられませんでした。

病院全体を見ても、一人ひとりがプロとしての使命をまっとうしている方々ばかりだと感心させられ、自分たちがこの環境の中で出産できたことに、ただただ感謝するばかりです。分娩再開後、第1号で出産できたことに幸を感じつつ。

最後に、草加市立病院産婦人科の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

田村直毅・朋美

を図りたいと考えています。

幸い、すべて産婦人科専門医資格を持ち、産科的技術のみならず、悪性腫瘍などの難手術にも習熟した経験豊富な医師が揃いましたので、思いがけない異常事態にも対応が可能となりました。

一方、先進的な胎児診断(羊水分析、胎児血流分析、超音波診断)や遺伝相談のご希望にもお応えすることが出来ます。

当院の小児科スタッフも充実しておりますのでトータル形で、母児の健康向上を推進してゆきたいと思っております。

ジにして、病院に届けていただきました。(上囲み)

10月9日には2人目の赤ちゃんが産声をあげました。

荒川区在住の加藤雅史さん・真理さんご夫妻の第1子で

体重は2898gの女の子瑞希ちゃん。真理さんのお二人は花栗1丁目にお住まいで、里帰り出産第1号となりました。

真理さんとお二人は、親元での出産を望み、里帰りを受け入れてくれる日を待っていたそうです。真理さんは「10月早々の予定日なので心配でしたが無事に赤ちゃんを産むことができました。両親のそばで出産することができすごく心強かった」と喜びを語ってくれました。

産科病棟は、赤ちゃん誕生とともに、以前の活気が少しずつ戻ってきています。

赤ちゃん誕生に 助産師は喜びを実感

産科の休止により、助産師は別々の部署で仕事をしていたが早期再開を夢見て、定期的に集まり会議等を重ねてきました。

6月に産科再開が決まり、再び出産のお手伝いができる喜びとお母さんに安心して出産していただきたいの思いから、夜遅くまで各種マニュアルの見直しや先生方との打ち合わせなど様々な準備をしてきました。

再スタートの準備も大変でしたが、再開後、初めての赤ちゃんが誕生の瞬間、今までの苦労が飛んでしまったといえます。そして、改めて助産師として働くこ



この素晴らしいさを実感したそうです。



(写真) 産科病棟の再オープン式から

分娩の予約について (3月分は受付終了)

当院では安全・安心してご出産していただくため、受入制限を設け分娩の予約をお受けしています。

■分娩の受入数

年内が月30名、平成20年1月以降が月40名

■予約できる方

本人または両親が市内にお住まいの方

■受付時間

午前8時～11時(分娩予約は午前9時～11時)

■受付場所

産婦人科外来窓口

※10月15日現在、平成20年3月分は受入人数を超えたため、申し訳ありませんが分娩予約はできません。

※妊婦健診等の産科外来も始まり、今後、分娩予約を希望する方が大幅に増え混雑することが予想されます。

事前に予約状況を電話等で確認いただき、お早めにご予約をお願いします。

産科情報は ホームページで

市立病院のホームページから産科の診療案内、分娩の予約状況、産科施設紹介、産科Q&A集などがご覧いただけます。

<http://www.soka-city-hospital.jp/>

詳しくは、産婦人科外来へ。
☎946・2200

産科再開に寄せて

東京医科大学

周産・女性診療科

教授 久保田 俊郎



産科が再開されましたことを心よりお喜び申し上げます。

現在の産婦人科医療は、臨床レベルの進歩に反比例して医師数と施設数の不足が著しく、これまで経験したことのない深刻な危機に

陥っております。都心でさえも産婦人科医が確保できず、分娩を扱う病院は規模の縮小や閉鎖を余儀なくされている状況です。

こうした中、草加市立病院が5名の医師を確保し、産科を再開しましたことは、同じ悩みを抱えた多くの自治体病院の良い手本になるものと高く評価をしております。

これもひとえに再開を望む市民の皆さんの後押し、

高元病院長をはじめとした病院側の熱意と努力の賜であると敬意を表する次第です。

当大学の関連病院として当直医の派遣など、できる限りの支援を行ってまいりますと考えおりますので、市民の皆さんも暖かく見守っていただければと思っております。

終わりに、地域の中核病院として益々発展することを願っております。

信頼されるより良い病院を目指して

市民の皆さんの声にお答えします

当院では、市民の皆様のご期待にお応えし信頼されるより良い病院にするためには、皆様の声に耳を傾けることが重要と考えております。そこで、オレンジ色のエプロンを着けて患者さんのご案内などをしていただいている院内ボランティア「マーガレット」の皆さんにお集まりいただき、日ごろ「患者さんからよく聞かれること、疑問に思っていること」などについて、当院の高元院長、武井看護部長、宮野事務部長に質問していただきました。

Q1 予約しているのになぜ待たされるのですか？

当院は、患者さんの待ち時間を少なくするため、予約制を導入しています。しかし、地域の診療所に比べ、当院では専門的な治療や検査を必要とする患者さんが多いため、どう

しても診療時間がずれ込むケースがでています。外来対応の医師数が十分でない中、患者さんの受入制限を行わない限り、待ち時間の解消は難しい状況です。

当院では、お一人お一人に丁寧な診察を心掛けており効率化とは矛盾しますが、

質の高い医療の提供に努めておりますので、ある程度の待ち時間をご容赦をお願いします。

また、直接来院された初

診の患者さんは、予約の患者さんを優先するため、長時間お待ちになる場合があります。しかし、苦しいときや気分が悪いときなどはいつでも受付にお申し出ください。

また、直接来院された初診の患者さんは、予約の患者さんを優先するため、長時間お待ちになる場合があります。しかし、苦しいときや気分が悪いときなどはいつでも受付にお申し出ください。

また、直接来院された初診の患者さんは、予約の患者さんを優先するため、長時間お待ちになる場合があります。しかし、苦しいときや気分が悪いときなどはいつでも受付にお申し出ください。

Q2 奈良県で妊婦さんが病院から受け入れ拒否され、流産したことが問題になっていますが、市立病院の受入体制はどうなっていますか？

当院の産科は、10月から常勤の医師5名体制でスタートしました。診療日はもちろんのこと、夜間・休日についても、関連大学の応援も得て当直体制を組んでいるため、分娩や手術中などを除き、救急搬送の妊婦さんをお引き受けすることが出来ます。

Q3 二次救急ってなんですか？

救急医療は、患者さんの疾病や損傷の程度により一次救急・二次救急・三次救急の三段階に分けて整備されています。風邪や腹痛などの初期治療は一次救急(休日当番医、夜間急患診療所)、入院治療や手術を要する重症度の高い場合は二次救急(市立病院等)、高度な医療が必要な重症患者の場合は三次救急(救命救急センター)

Q4 救急なのに市立病院はなぜ受け入れてくれないのですか？

当院の救急体制は、小児科、内科系、外科系および産婦人科の医師が、365日24時間体制で対応しています。そのほか、脳神経外科は週4日の当直およびオンコール(待機)体制をとり救急医療に重点をおいています。

しかし、すべての診療科でいつでも専門医が待機しているわけではありません。また、専門医がいても重症の患者さんを治療中などの場合は迅速な対応が難しい場合もあります。

また、高度な医療が必要な重症患者さんの場合は、救急隊の判断で救命救急センターに搬送されるケースがあることをご承知ください。

当院では、今後、救急診療科専属スタッフの増員を図り、今まで以上に救急医療の充実を図りたいと考えております。

Q5 マスコミ等で全国的な医師不足が取り上げられていますが、市立病院は大丈夫なのですか？

市立病院のような自治体病院は、大学病院から派遣された多数の医師

により支えられています。

しかし、新しい医師の研修制度により、新卒の医師は待遇のいい都市部の大病院に集中するという傾向が強くなりました。そのため当院では、すべての診療科に十分な医師が確保されている訳ではありませんが、現在は東京医科大学から多くの医師が派遣されており、比較的恵まれた環境にあります。

また、幸いして、経験豊かな産婦人科医も確保し、10月から待望の産科を再開することができました。小児科も、365日24時間救急診療を行っていますので、ご安心ください。

Q6 看護師は足りているのでしょうか？

看護師不足は当院にとりましてもたいへん深刻な問題です。産科の再開もあり、看護師不足が続けば、最終的には患者さんへのしわ寄せが心配されます。命と接する職業だけに、負担を患者さんに転嫁することは許されません。当院では、採用条件を大幅に緩和するなど、看護職員の確保に全力で取り組んでおります。

皆さんのお近くに看護師資格をお持ちの方がおりましたら、「市立病院は看護師を募集している」とひと声おかけください。

患者さんを介助するボランティア



循環器科

科部長 土信田 伸夫

現在当院循環器科は私を含め5名の常勤医師で診療を行っています。高齢化社会を迎え、また生活習慣病（高血圧症、糖尿病、高脂血症、メタボリックシンドローム）の増加から循環器科を受診する患者数は年々増加しています。日々の外来では一日50名程度



の再来および10名程度の新患者さんの診察をこなし、検査治療では2名の臨床工学士、専任の放射線技師、看護スタッフと共に虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）を中心に最新の心臓カテーテル検査装置を駆使し年間300例の冠動脈造影、100例の冠動脈血管形成術（カテーテル治療）を行っています。その他徐脈性不整脈に対しては年間20例程度のペースメーカー植え込み術を、頻脈性不整脈に対しては高周波カテーテルアブレーション



1シオンを施行しています。今後さらに症例の増加が予測される領域でありスタッフ一同昼夜を問わず診療に励んでいます。動悸、息切れ、胸部不快感などお悩みのことがあればご相談ください。

歯科口腔外科

科部長 飯野 光喜

当科の一番の特徴は、診療範囲が広くほぼすべての口腔外科疾患（口や顎のさまざまな病気）に対応していることです。具体的には、口腔癌（舌癌・歯肉癌など）、インプラント治療、顎変形症手術（受け口などに対する顎の形成手術、唇裂口蓋裂手術、顔面骨折手術



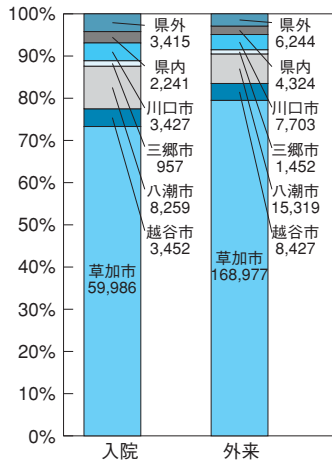
術など大きな大学病院で行なわれることが多い手術も充分こなせる体制ができています。特に顎変形症や口蓋裂の患者さんは埼玉県他地域や群馬県・栃木県からも来院していただいております。最近はこちら手術件数が増加しました。このような充実した診療体制、手術件数により、当科は埼玉県では数少ない口腔外科専門医研修指定病院の認定を受けています。また、心臓病や糖尿病などを患っている方に対する抜歯などの際にはか



かりつけ医の先生方と十分な連携をとって安全な治療に努めるとともに、恐怖心の強い方の抜歯に際しては鎮静剤の注射などを使用して可及的に苦痛の少ない手術になるよう心がけています。

診療科紹介

■患者の地域別内訳（人）



18年度市立病院事業報告

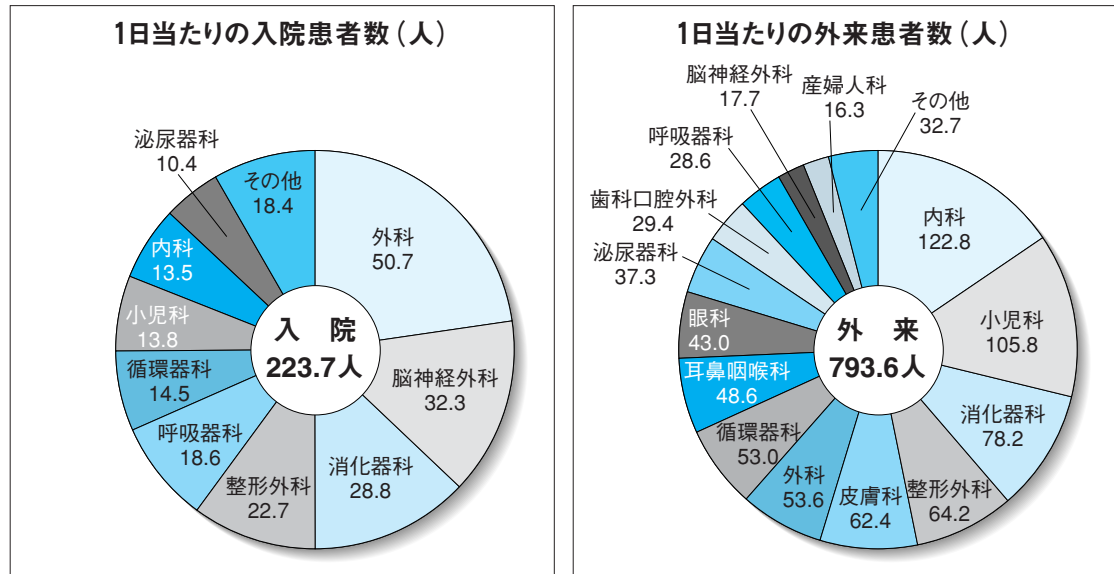
患者は1日当たり入院223.7人、外来793.6人

平成18年度草加市立病院事業の概要をお知らせします。

市立病院を利用した患者さんは、入院が1日平均223.7人（年間延べ81,737人）、外来が1日平均793.6人（年間延べ212,446人）でした。経営面では、入院患者数等の増加により損益収支は前年度と比較して改善されましたが、医療制度の改革や診療報酬の見直し、全国的な医師や看護師不足等により病院を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。

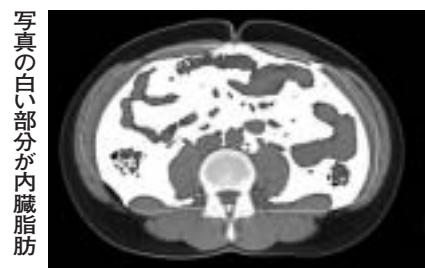
市立病院では、引き続き、市民の皆様の医療ニーズに応えるため、地域の医療機関との連携を図りながら健全で効率的な経営を行い、良質で安全な医療の提供に努めてまいります。

■1日当たりの診療科別患者数



■患者数および医業収益の状況

	区 分	平成18年度	平成17年度	増 減	前年度対比
入 院	患者延人数	81,737人	77,839人	3,898人	105.0%
	入院収益総額	3,103,149,675円	2,838,343,972円	264,805,703円	109.3%
外 来	患者延人数	212,446人	222,679人	△10,233人	95.4%
	外来収益総額	1,627,277,498円	1,535,831,261円	91,446,237円	106.0%
入院・外来収益総額		4,730,427,173円	4,374,175,233円	356,251,940円	108.1%



写真の白い部分が内臓脂肪
高脂血症、高血圧、糖尿病などの生活習慣病は内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満が原因の1つであることがわかってきました。内臓脂肪型肥満に加えて、

「お父さんメタボだ!!」病院のエレベーターの中で親子のこんな会話を聞きました。小さなお子さんでも知っているのだと驚きましたが、最近世間で良く聞く「メタボ」ってどんなものか皆さんご存知ですか？
日本人の3大死因は、がん、心臓病、脳卒中です。そのうち心臓病と脳卒中は動脈硬化が原因となる病気です。「糖尿病のけがある」「少し血圧が高め」、などとまだ病気とは診断されていない予備軍でも、それらがいくつか重なると、心臓病や脳卒中になりやすくなるということがわかってきました。この動脈硬化が起こりやすい状態にあるのが、「メタボ」と診断される方なのです。

メタボってなに？

養調査によると、40歳〜74歳の男性の2人に1人、女性の5人に1人がメタボが強く疑われます。

左にメタボの診断基準をのせましたので、みなさんも是非チェックしてみてください。いくつかあてはまる項目があるかもしれません。

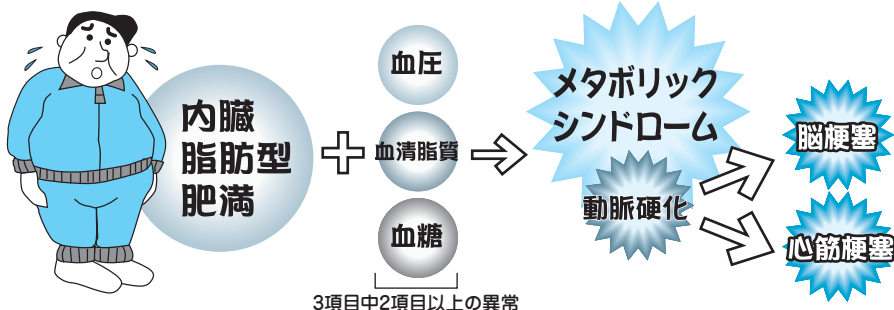
では、予防法や改善を考えていきましょう。

まず、予防と改善の基本は適正な食事と無理なく続けられる運動です。

食事は摂取カロリーや栄養素のバランスを考えて食べるのが大切です。運動は軽く汗をかく程度の継続できる運動がよく、ウォーキングなどの有酸素運動がお勧めです。

そして、食事療法と運動療法で改善しない場合には薬物療法が必要となります。ただ、薬物療法をしているからといって、食事療法と運動療法がおろそかになつては意味がありません。

食事、運動、薬物療法をしつかり行つて、少しでも動脈硬化の起こりにくい身体に近づけることが大切です。



す。メタボの治療とは動脈硬化から起こる心臓病や脳卒中などの病気を予防することが目標です。現在症状がないからといって放っておくのは危険なのです。皆様も是非「脱メタボ」に取り組んでみてください。

内科医師 宮田 由紀

メタボリックシンドロームの診断基準

- 内臓脂肪の蓄積（腹囲：男性で85cm、女性で90cm以上）に加えて、脂質、血圧、血糖の3項目のうち2つ以上の項目があてはまるとメタボリックシンドロームと診断されます。
1. 脂質異常（中性脂脂肪値150mg/dL以上、HDLコレステロール値40mg/dL未満のいずれかまたは両方）
2. 高血圧（最高血圧130mmHg以上、最低血圧85mmHg以上のいずれかまたは両方）
3. 高血糖（空腹時血糖値110mg/dL以上）

安心・安全な医療を提供するため みんなで患者さんを支えています。

——草 加 市 立 病 院——
・診 療 日 月曜日～金曜日、第1・3土曜日(祝休日を除く)
・受付時間 午前8時～11時(診察は午前9時～)

安心・安全な医療の提供をめざして 医療安全管理委員会

当院では、安心・安全な医療を提供するとともに患者サービスの向上を図るため、様々な院内委員会を設置しています。

その一つが「医療安全管理委員会」です。事故はいつでも起こりうることを前提に、できる限りそれを減らし最悪の事態を避けるため、あらゆる方策を講じることを職員共通の認識としています。

医療従事者の不注意や不測の事態が、単独あるいは重複して発生したことによって、医療上望ましくない事態を引き起こしかねません。過ちが医療事故という形で患者さんに実害を及ぼすことのないような仕組みが重要となっています。同委員会では、医療従事者の個人レベルでの事故防止と病院全体での組織的な事故防止の二つの対策を推し進めています。

医療事故を未然に防止するための調査と対策として、インシデントレポートシステム(医療ミス・事故等の報告)を導入し、発生原因、再発防止策の検討を行っています。また、事故につながる可能性がある事例(ヒヤリ・ハット)の把握にも努めています。

この他、研修会等を開催し、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知するとともに、マニュアルの徹底やリスクマネジメントの情報提供を通じて職員個々の安全意識の向上に努めています。



過食と野菜不足は要注意!! 栄養科長 小山 由佳

当院の栄養科では、年間およそ1,200件の個別栄養相談を行っています。その80%以上が糖尿病の患者さんです。相談の中で特に問題と思われる点は、夕食時の過食と野菜不足です。

皆さんの食事はどうでしょうか?夕食はボリュームいっぱいなのでは?特に遅い時間の食事や食べ過ぎは要注意です。また、寝る前にお菓子を食べたり、ジュースなどを飲んでいませんか?これらが悪循環となり、朝食をしっかりと食べられない方が増えています。

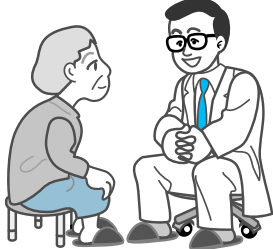
野菜はしっかりと摂れていますか?夕食ではしっかりと摂っているが、朝・昼食はほとんど摂っていないという方が多く見られます。野菜は毎食、生野菜なら両手一杯、温野菜なら片手に一杯は食べるようにしましょう。また、野菜というとサラダしか頭に浮かばない方が多いようですが、煮物、炒め物、おひたし等いろいろな調理法があります。使い分けて飽きのこないように工夫してみましょう。

食生活について、ちょっと見直してみませんか。



医療スタッフのご案内 (平成19年10月1日現在)

- | | |
|----------------------|--|
| ◎ 病院事業管理者(兼) 病院長 | 高元俊彦(循環器科) |
| 副院長(兼) 医療技術部長 | 土屋史郎(小児科) |
| 副院長 | 安水洗彦(産婦人科) |
| 診療部長(兼) 外科部長・救急診療科部長 | 西村久嗣 |
| 診療部長(兼) 消化器科部長 | 矢内常人 |
| □ 診療科目(常勤医師名) | |
| 内 科 | 小澤直子、宮田由紀、大村綾子 |
| 呼吸器科 | 新 謙一、鶴浦康司、梅本由起子 |
| 循環器科 | 高元俊彦、土信田伸夫、古林正比古、大野篤行、伊藤祐輔、鈴木聖也 |
| 消化器科 | 矢内常人、吉田玲子、松本浩之、佐野智彦 |
| 小 児 科 | 土屋史郎、長谷川 毅、吉田香代子、遠藤明史、大野文智 |
| 外 科 | 西村久嗣、西岡良薫、小野千尋、星野直明、村山忠雄、近藤純由、アディクリスナ・ラマ |
| 整形外科 | 栗原良暁、関 康弘、野木圭介 |
| 脳神経外科 | 新井俊成、森本卓史、工藤琢巳 |
| 皮 膚 科 | 小森一哉、若林知江 |
| 泌尿器科 | 鎌田成芳、岡田洋平 |
| 産婦人科 | 安水洗彦、小林久晃、加藤真也、佐藤徳郎、大久保大孝 |
| 眼 科 | 非常勤のみ |
| 耳鼻咽喉科 | 川島真理子、田井真愛 |
| リハビリテーション科 | 浜崎義雄 |
| 放射線科 | 中川恒明 |
| 歯科口腔外科 | 飯野光喜、鈴木麻美、庄村江里子 |
| 精 神 科 | 水野和子 |
| 麻 酔 科 | 松澤吉保、石橋桜子、山本 衛 |
| 健 康 管 理 科 | 大澤 真 |
- ※ この他、各分野で研修医9名が診療や検査に携わっています。



薬剤部って、どんな仕事をしているのかご存知ですか? 薬剤部長 源川 良一

薬剤部は、現在私を含めて14名の薬剤師で薬に関する業務を行っており、患者さんが適切で安全な薬物療法を受けられるように支援しています。また、医師・看護師とともに24時間365日昼夜を問わず薬剤師の専門性を生かした業務を行っています。

薬剤部の業務は、調剤業務、医薬品情報管理業務、医薬品管理業務、病棟業務等に分けられます。特に、病棟業務では、薬剤師を病棟に常駐させることにより患者さんの治療に必要なお薬の作用、副作用、服用上の諸注意等についてきめ細かな説明を行っています。

また、患者さんの退院後も必要に応じて地域の調剤薬局や病院の薬剤師に薬に関する情報提供を行っています。

当院では医薬分業を行っているため多くの患者さんが院外処方せんで薬を受け取っています。院外処方せんの有効期限は、交付日(処方せんを受け取った日)を含めて4日以内です。有効期限内に保険調剤薬局へお持ちください。これを過ぎると無効となりますのでご注意ください。

救急外来から「ちょっと一言」

救急外来には、体調不良を中心に様々な問い合わせが数多く寄せられます。その数も年々増加し、平成18年度は1日当たりおよそ80件。それも夜間に集中する傾向があり、直接来院される方も含め、小児が多数を占めています。



救急外来では看護師3名が当直し、様々な不安を抱え電話をかけてこられる方に受診が必要かどうかを見極めながら、今できる対処法や解熱剤の使い方等を説明しています。しかし、電話の問い合わせはもちろんのこと、来院された方が自宅で安心して過ごせるようにじっくりご説明することが難しい場合があります。重症の患者さんの治療を行う救急現場では、その時の状況に応じて時間的にも人員的にも制約があるからです。

救急外来は時間外診療ではなく救急の患者さんを診るのが本来の目的であることをご理解ください。

なお、小児の急病については、小児科学会がインターネット上で作成した「こどもの救急」<http://kodomo-qq.jp/>が参考になると思いますのでご利用ください。

外来では、当院のホームページを利用して「家庭で役立つケア」の豆知識情報の発信を進めています。

第4回こども健康教室

市民のための「こども健康教室ーこどものアレルギー」を開催します。

アレルギー性疾患は、気管支ぜんそく、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、じんましんなどの病気ですが、今回は気管支ぜんそくと食物アレルギーを中心にお話しします。

- 日時 11月17日(土)午後2時30分～4時 受付は午後2時～
 - 会場 市立病院3階講堂
 - 講師 当院副院長 土屋 史郎(小児科)
 - 定員 60人程度(先着順)
- 事前の申込みは不要です。直接、会場にお越しください。
託児室はありませんが、お子様連れでも結構です。
- 問い合わせ 小児科外来 ☎946・2200



助産師・看護師を随時募集中

採用年齢を49歳まで引き上げ

産科再開と診療体制の充実のため、助産師と看護師を随時、募集しています。採用年齢の上限を49歳までに引き上げました。当院は、24時間保育施設も完備しております。あなたの能力を活かしてみませんか!

- 職種 助産師および看護師
- 受験資格 助産師免許、看護師免許を有する49歳(採用予定時点)までの方
- 申込み期間 平成20年1月31日(木)まで
- 試験 日時は随時、内容は論文と面接
- 採用日 受験日の翌々月の1日

※ 募集要項および申込書は、市立病院経営管理課で配布しています。また、市立病院ホームページ(<http://www.soka-city-hospital.jp/>)からダウンロードすることもできます。

詳しくは、経営管理課へ。☎946・2200